

目指す学校像	「豊かな心をもち、互いに認め合う児童の育成」かしこく(進んで学ぶ子)やさしく(素直で明るい子)たくましく(体をきたえる子)一生懸命に(よく働く子)
--------	---

重点目標	1 個別最適化による学ぶ意欲の向上、地域と連携した体験活動の充実 2 細やかな教育支援、教育相談、安全・安心な学校生活の充実 3 よりよく生きようとする豊かな心をはぐくむ教育と学校行事の充実 4 チーム東宮下として教育活動に取り組む組織づくり。
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学 校 運 営 協 議 会 による 評 価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実 施 日 令 和 6 年 2 月 16 日				
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	学 校 運 営 協 議 会 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語・算数ともに全国、市平均を下回る結果である。 ○市の学習状況調査において、学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べ全教科で総じて高い。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、無解答率が全国や市の平均よりも下回っている。特に国語の「書くこと」及び算数の「教と計算」等、主に基礎的な学力の定着に課題が見られる。また、正答率は二極化傾向が見られる。 ○国語や算数への学習意欲は高いが、問題の意味を理解する読解力や論理的に考える思考力が課題である。	・個別最適化による学ぶ意欲の向上 ・地域と連携した体験活動の充実	①デジタル教材等を活用し、児童の基礎的な学習を反復して取り組む時間を設定し、一人ひとりにあった目標をもって学習できるようにする。 ②全国学力・学習状況調査について児童が自己採点を行い、自らの学習状況を把握できるようにする。 ③課題意識を大切にすることで学びに対する意欲を高め、自力解決につながる授業展開をする。	①1～6年の国語・算数2学期末まとめテストにおいて、平均正答率が70%以上となったか。 ②自己採点の結果をもとに自らの学習状況を認識し、目標を立てることができたか。 ③学校自己評価に係る児童アンケート「児童のタブレットの学習活用に関する項目」の肯定的な回答の割合が85%以上となったか。	①1～6年の国語の平均正答率は75.8%、算数の平均正答率は79.7%となり、目標を達成することができた。 ②③全国学力テストでは自己採点に取り組み、自らの学習課題の把握できた。学校自己評価(児童)における「児童のタブレットの学習活用に関する項目」では、肯定的な意見が89.4%となり、目標を達成することができた。	B	・基礎的な学力定着を図るため朝自習や授業時間にミニテストを数多く行い反復学習を今後も継続していく。 ・タブレットの効果的な活用方法について、エバンジェリストを中心に他校の実践を参考にしたり研修に参加したりしていく。また、タブレットの家庭への持ち帰りについては、引き続き検討する。	・個別最適化による学ぶ意欲の向上と言っているが、児童の学力の実態からみても教職員の数が十分足りているとはいえない。 ・基礎学力の定着のため、読み・書き・計算は大切である。反復学習を今後も続けてほしい。 ・地域と連携した体験活動の充実としてヨーロッパ野菜の栽培と販売であるが人と人とのつながりを大切にしたい。また、生きた教材であるのでこれからも大切にしたい。
2	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国、市平均を上回った。 ○昨年度、救急車を要請したけがは0件であったが、雨天時の校内で走るなどを原因とした打撲等のけがが多く発生した。 〈課題〉 ○児童一人ひとりの家庭の状況の変化を含め、的確に把握し、組織的に支援・相談にあたる。適切に外部機関と連携する体制に課題がある。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・教育相談に向けた校内体制の充実 ・安心・安全な学校生活の充実	①「心と生活のアンケート」や本校独自の「お話タイム」等の面談の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握し、適切な教育相談を行う。 ②要配慮児童について校内委員会や生徒指導部とICTを活用しながら、情報交換を密にし、SC、さわやか相談員、SSW、他機関等と連携し、迅速に対応する。	①学期に1回実施している「心と生活のアンケート」について、3～6年の「信頼自己」の数値(A・Bの割合)を向上させたか。 ②学校自己評価に係る教職員アンケート「児童一人ひとりへ教育支援・相談に向けた校内体制に関する項目」の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。	①「心と生活のアンケート(信頼自己)」について、3～6年の数値は1～3回目の数値に、有用な変動(0.38→0.45)が見られた。「お話タイム」を月1回実施することができた。 ②学校自己評価(教職員)「生徒指導・教育相談」98.0%となり、目標を達成することができた。	A	・「お話タイム」の継続的な実施により、児童の心の状況や悩みについて、教職員が早期発見できる体制をさらに強化する。 ・月1回、校内委員会での情報交換を行い、全職員で児童の状況に合わせた適切な支援体制を構築する。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援の結果か、ここ数年で本校児童が大分落ち着いてきている印象をもっている。ICTもいいが、本校はやはり小規模校のよさを生かし、膝を突き合わせて互いに話し合うことを重ねていくことが子ども達の成長につながっていると感じる。 ・今年1年を通して学校周辺の草刈りや枝の伐採が行き届き、死角がなくなった。巨木(ポプラ)の強風による落枝や倒伏については児童の安全を守るためにも教育委員会に重大案件として再三対応を依頼すべきである。
3	〈現状〉 ○昨年度、学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、自ら課題を見出し、協働して解決していく児童を地域全体で育てていくことを共有した。 〈課題〉 ○昨年度までの学校評価から、学校に協力する家庭の意識に多少の差がある。 ○今年度は、学校運営協議会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域に広め、地域全体で児童の育成にあたる体制づくりが課題である。	・豊かな心をはぐくむ学校行事の充実 ・あいさつあふれる東宮下小地域に向けた取組	①開校45周年行事をPTAと協力して安心して参加できるよう配慮し、本校の独自性が出るようにする。 ②本校のHPに学校運営協議会及び学校行事の取組を発信するページを作成し、地域・家庭とめざす児童像等を共有できるようにする。	①関係する方々と情報共有をし、共同して取り組むことができたか。 ②学校自己評価に係る保護者アンケート「保護者や地域は、学校教育への参画に関する項目」の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	①PTAをはじめ地域(学区内、学区外)の人々と共に、餅つき体験や記念式典を実施できた。 ②学校自己評価(教職員)「家庭・地域との連携」に係る肯定的な回答が、91.5%となり、目標を達成することができた。	B	・学校、PTAが協議を重ね協力して教育活動を充実させていく。 ・児童、保護者、地域が共に、楽しめる学校行事を計画的に進めていく。そのために学校行事ボランティアを試行する。	・コロナ前にPTA行事も戻ったからか、出席率が低くなったように感じられる。 ・保護者同士の結びつき、地域の結びつきも弱くなっているといえる状況下において防災活動・防災教育を通して地域と学校・保護者同士の絆を深めていく来年度の基本方針は良いと思う。 ・あいさつあふれる東宮下小地域ということで来年度も引き続き七里中学校とのあいさつ運動を継続してほしい。
4	〈現状〉 ○ICT機器の活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○全学年一部教科担任制実施により、各教員の専門性を生かした教科指導を行うことができています。 〈課題〉 ○ICT機器の活用について、個々の教員間の取組を共有することで、更に活用が進むと考えられる。	・チーム東宮下として教育活動に取り組む組織づくりと働きやすい職場の構築	①学年・学級を超えて迅速かつ正確な情報共有と組織的対応ができる高信頼性集団の基礎を構築する。 ②年間を通して、ICT機器の活用方法について、教員間で共有する研修を実施する。	①学校評価に係る教員アンケートにおいて関連する項目の肯定的な回答も割合が80%以上となったか。 ②ICT機器を効果的に活用した授業実践事例を共有する場を構築するとともに活用促進を図る場を設けることができたか。	①学校自己評価(教職員)「さいたま市GIGAスクール構想」の趣旨に呼応し、児童一人一台端末の整備により、ICTを活用した効果的な学習を展開している。」では、肯定的な意見が84.6%となり、目標を達成することができた。 ②学校自己評価(教職員)「体験的な学習・問題解決的な学習指導、児童の興味・関心を生かした学習指導が適切におこなわれている。(以下略)」では、肯定的な意見が94.3%となり、目標を達成することができた。	B	・スクールダッシュボードを活用してより効果的な活用を探索していく。 ICT機器の学習への活用方法について、試行錯誤をしながら効果的な実践の研究を継続的に進めていく。 ・本校の児童の実態や周辺の自然環境を活かし、体験学習や問題解決的な教育実践を充実させていく。	・スクールダッシュボードの活用もよいが朝の「健康観察」で声を出す等のアナログな部分でも本校には残してほしい。 ・小規模な学校であるからこそ、教職員がまず健康であることが重要である。無理をせずに勤務してほしい。